THE ROTARY CLUB OF KITAMI

Rotary

R. I. DISTRICT 2500 JAPAN

北見ロータリークラブ週報

●創立/1937年9月19日 ●事務所/北二条ビル 3階 302号 ☎25-2824 ●例会日/毎週水曜日 ●例会場所/ホテル黒部

HPアドレス https://www.kitamirc.jp

第3531回例会・2025年12月10日

本日のプログラム

「Passion Talk」

2025~2026年度国際ロータリーテーマ

UNITE FOR GOOD

R.I. 会長 フランチェスコ・アレッツォ

第3530回例会（12月３日）の記録

ロータリーソング 奉仕の理想

ゲスト 株式会社９かける９ 代表取締役 石原 卓弥 様
米山奨学生 北見工業大学 テリゲル 様

会長挨拶 小林会長

皆さん、こんにちは。12月のロータリーは疫病予防と治療月間となっております。誰にとっても健康であることは何より大切なことです。しかしながら、世界で約４億人もの人が基本的な医療を受けられていないと言われております。私達ロータリアンは、全ての人が質の高い医療を受ける権利を持っている、と考えています。ロータリーの会員は、マラリアやエイズなど様々な疫病予防の治療に関わったり、貧困で十分な医療を受けられない方に対し、眼科や歯科診療も行っています。また、医療従事者への研修や市民に対する衛生習慣の指導など、世界中で数百のプロジェクトを実施し、命に関わる病気の蔓延を食い止め、病気の予防を徹底させる活動を行なっています。私はこの話をするにあたり、マラリアについて少し調べてみました。全世界のマラリアの症例、推定２億４千万件のうち、95％がアフリカで発生していると言われています。また、マラリアによる死亡者の80％が、５歳以下の子どもであるという報告もあります。マラリアが重症化すると、臓器不全や血液と脳の異常による合併症といった症状が出ますが、治療ができない訳ではないそうです。要は、お金や移動手段がないため、医療施設に行くことができない人や、検査の必要性について自覚がない人が多いということです。疫病との闘いは、患者の直接的なサポートではなく、地域全体、社会全体のキャパシティを高めることが必要だと言われております。また、今後ロータリアンとして多くの情報を得ることが、皆さんにとっても重要ではないかと思っております。

少し話は変わりますが、国連の報告によりますと、昨年までは東京が世界で最も人口の多い都市だったそうですが、今年はインドネシアのジャカルタが約4,200万人で１位となりました。２位はバングラデシュのダッカで約3,700万人、３位が東京で約3,300万人だということです。北海道も人口減少、少子高齢化が進んでいますが、このような問題を皆さんで問題解決していただければと思います。それでは、本日の例会もお楽しみください。以上で会長挨拶とさせていただきます。

幹事報告 高橋幹事

1．新入会員の異議申し立てがございませんでしたので、株式会社 コンサルトジャパン 常務取締役 近藤征伸様が入会となります。入会式は１月７日に開催の予定です。

2．12月の例会変更のお知らせです。
- 12月17日（水） 北見ＲＣ 忘年家族夜間例会（18時半～ホテル黒部）
- 12月18日（木） 北見西ＲＣ 年末忘年夜間例会
- 12月25日（木） 北見西ＲＣ特別休会
- 12月26日（金） 北見東ＲＣ特別休会

3．12月のロータリーレートは１ドル＝156円です。

誕生記念 鴨下会員・荒井会員・横戸会員・木村会員

結婚記念 帰山会員・佐々木(朋)会員

入会記念 福地会員

ニコニコＢＯＸ

佐々木(雄)会員～少し早いですが、テリゲルさん12月28日お誕生日おめでとうございます。

主藤会員～北見商工会議所 運輸車輌部会部会長をこの度退任しました。３期９年間、無事務める事が出来ました。ありがとうございました。

宮島会員～今年も「ＮＨＫ歳末たすけあい・ＮＨＫ海外たすけあい」を、12月25日(木)まで実施します。「ＮＨＫ歳末たすけあい」は共同募金会を通じて、国内で孤独の状態に置かれている人や、生活に困窮する人々のために役立てられます。「ＮＨＫ海外たすけあい」は日本赤十字社を通じて、世界各地で紛争、災害、病気などに苦しむ人々のために役立てられます。今年も北見ロータリークラブの会員皆様からご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

プログラム　ゲスト卓話　「ふるさと北見を盛り上げるために」

株式会社 ９かける９　代表取締役　石原　卓弥 様

皆様、初めまして。株式会社９かける９ 代表取締役の石原卓弥と申します。本日はよろしくお願いします。私は2001年生まれで、現在23歳です。小林会長はじめ、大先輩方の前でお話させていただくということで少し緊張していますが、温かい目で最後まで見守っていただければと思います。

北海道新聞さんや伝書鳩さん、東亜リサーチさんに取り上げていただきましたが、結局は何をやっているのかと皆さん思っていると思いますので、自己紹介させていただきます。生まれは旧端野町で、先祖は屯田兵一期として富山県高岡市から入植し、私はその５世にあたります。端野の開拓初期からある家ということで、誇りに思っています。小中学生時代には夏は野球、冬はスキーで心も体も鍛えられました。小学校の卒業文集には、総理大臣かお笑い芸人になりたいと書いてありました。「スモールビッグ」というコンビ名で漫才をやっていたこともあります。高校は北見北斗高校に進学し、山岳部に入ってインターハイを目指しながら勉強もしていました。また、高校生クイズを見るのが好きで、いつか出場して北見北斗の名前を出してみたいと思っていました。高校１年生の５月にはクイズ研究会を創設し、立ち上げメンバーとして活動しました。その際、ファミリーランドの謎解きイベントで使うクイズを作成させてもらう機会もありました。東京大学に進学後も「東大生に挑戦」というテーマでクイズを提供したこともあり、その辺りからまちづくりに関わらせてもらう機会があったように思います。高校１年生の時には学内の研究活動の一環で、北見の人口減少について研究しました。その中で、愛知県新城市や山形県遊佐町で行われている若者議会について取り上げました。これは、25歳以下の約20名の若者を任期１年で若者議員として任命し、町の予算の使い方、次年度の予算の使い方、1,000万円を彼らに任せるといった取組みです。１年間の政策の取組みや効果などを研究し、学内で最優秀賞を獲得しました。この研究の成果を辻市長や副市長、幹部職員の方にプレゼンさせていただく機会もありました。しかし、その時の回答は「お金がないのでできません」というものでした。その頃から財政難は分かっていたのではないかと、今となっては思います。市長からは、お金のかからない方法で、若者からボトムアップでまちづくり、或いは主権者教育のようなことをやってみて欲しいと言われました。高校１年生には辛い回答でしたが、人にお願いするのではなく、自分がまちづくりの立場に立ってしっかりボトムアップでやっていきたい、とその時初めて思いました。そのような高校時代を過ごし、現役で東京大学を受験しましたが惜しくも届きませんでした。この頃はコロナが出始めてきた時で受験をするのも大変な年でしたが、後期で北海道大学法学部に合格しました。コロナの影響で学校が始まったのも６月になってしまい、授業も全てオンラインになりました。部活はグライダー部に入部しました。部活の同期は受験で不完全燃焼だった人が多く、自分がしたい研究もここでは出来ないということで、改めて受験し直すという話を聞きました。その時には再度東京大学を受験するという考えはなく、札幌での生活も楽しんでいましたが、仲間に感化され、隠していた思いも湧いてきました。そこで、当時の所持金を全て使って鹿児島まで行き、屋久島や奄美大島の大自然に圧倒されてきました。大自然に触れたら自分の１年はどうってことないと思うようになり、金銭面を負担してくれた親に複雑な思いもありましたが、もう一度受験することを決意し、東京大学に合格することができました。コロナ禍や人との出会いで偶然が重なり、東京に行くことになったと思います。大学では最初の２年間は教養学部で色々な事を学び、３年生からは法学部で法律と政治を勉強しました。弁護士志望なので法律についてはもちろん全部勉強し、政治のゼミで政治家の方とお会いする機会もありました。この春大学を卒業し、４月に弁護士になるためロースクールに進学しました。そんな中、北見市が財政難ということで、昨年12月の市民説明会の段階から端野の会場に足を運んでいました。東京でもう少し色々な勉強をしてみたかったという気持ちもありましたが、いずれ北見に戻ってくると心に決めていたので、財政難がいい口実になり戻ってきました。財政難なのに戻ってきてすごいね、若いのにすごいね、とよく言われますが、私は北見が好きなので、北見に戻ってくる理由ができてラッキーだと思っています。北見に戻ってきて何か出来ることがあればと思い、青年会議所や端野の消防団に入ったり、北見マラソンやカレーライスマラソン、太陽まつりなどの実行委員会で活動したりしました。

最後に、会社の今後の展望についてお話させていただきます。当社は６月に設立登記し、主に教育事業を展開する事業を行なっています。教育の世界においては、都市部と地方の教育格差が問題になっております。財政難の中、大人達の話題はアクションプランや向こう２、３年のお金の話に集中してしまい、短期的な話が中心になっています。それはもちろん大事なことですが、私のような無責任な立場にいる人間こそが中長期的な目線を持ち、子ども達が希望を持って北見やオホーツクで生きていく選択をしてもらえるような種まきをしたいと考えています。そのために、自分の力を発揮できる、夢中になれてワクワクできる、彼らのポテンシャルを発揮できる場所を見つけるお手伝いをしたいと思っています。例えば、大谷翔平選手の活躍は、彼が野球というフィールドを選んだことに決定的な要因があると考えています。活躍の結果が「才能×努力」だとしたら、９×９は最高の状態です。特に才能、ポテンシャルの方で高いところを探すお手伝いを会社としてやりたいというのが起業の理念であり、会社名の由来になります。それを具現化するものとして、８月の夏休みには北見市教育委員会の後援のもと、市内の企業からもご協賛いただき、小中学生を対象に「オトナ前プロジェクト」というイベントを実施しました。これは一日体験型のバスツアーで、スポーツ、アート、勉強など色々な体験をしてもらいました。また、10月には90年代のテレビ番組「アメリカ横断ウルトラクイズ」のオマージュで「キタミ横断ウルトラクイズ」を企画し、北見市野球場から予選を開始し、常呂の常南ビーチで決勝を行うというイベントを行ないました。利益を生み出すものとして、旭川より東側では初の将棋教室を先月オープンいたしました。冬休みには高校生を対象に冬期講習を実施する予定です。今後は教育事業をメインで行いながら、売上が足りない部分は法律事務代行で補っていきたいと考えています。将来的には会社を経営しながら社会勉強を重ね、ゆくゆくは司法試験に合格し、M＆Aや事業承継、特許関連の仕事など総合的にできるような弁護士になり、北見で頑張りたいと思っています。今後とも、ご指導ご鞭撻いただけますと幸いです。本日はありがとうございました。

会員の輪

先日、居酒屋をオープンしてすぐにアルバイトとして入店してもらった北海学園生のスタッフが来店しました。現在、49歳と私と２歳違いという事もありまして、友達の様な付き合いでした。こうして長い月日を経て再会出来ると嬉しいもので、当時の他のスタッフの話、各部屋の名前ってなんだっけ？など懐かしく楽しい時間を過ごせました。そして、会いに来てくれるって幸せな事だと身にしみるひとときでした。

（佐々木　剛）

出席報告　舟山出席委員長

出席報告	例会日	会員総数	出席免除者数	出席者数	出席免除者の出席数	事前メークアップ	事後メークアップ	確定計算出席数	出席率
計　算　式		A	B	C	D	E	F	C＋E＋F	C＋E＋F/(A－B)＋D×100
本日	12／3	63	5	36	2	9	－	45	75.000％

【次回12月17日】　「忘年家族夜間例会」

2025～2026年度　北見R.C.活動方針

「クラブに革新を　笑顔で紡ぐ奉仕の輪」

～行動しようRotarianとして～

スポンサー・クラブとは

新クラブの結成に際して助力し、結成後も国際ロータリーの一員として速やかに成長するよう指導する責任を引き受けたクラブです。新クラブの結成に当たりガバナーに協力する特別代表の所属クラブがスポンサー・クラブになるのが普通です。